少し分かったら足が不自由な人の気持ちら

伊勢原市立中沢中学校　1年
杉崎（すぎざき）　璃久（りく）

僕は、5月に膝を骨折して4週間固定になり、松葉杖で生活することになりました。

僕が一番大変だったのは、家の玄関に行くために必ず通らないといけない階段でした。その階段は手すりがありません。骨折していて松葉杖で行動している僕には、とても難易度の高いことでした。いざ登ってみると、後ろのめりになって倒れそうになりました。幸い、母が倒れそうになった僕を支えてくれました。僕はこの時、「怖いな」「手すりがあったらいいな」と思いました。

その後、家の中の階段では手すりがあったので難なく登れました。その時、「やっぱり手すりがあると楽だな」と思いました。

翌日、僕が所属しているサッカーチームの試合を見に行きました。その時、僕が荷物を持って歩いているとチームメイトが駆け寄っ

てきて「持つよ。」と言って、荷物を持ってくれました。僕はその時、「ありがとう」と言ったと同時に、「荷物を持ってもらっただけでこんなに楽になるのだな。」と感じました。

学校生活では、階段を登るとき、僕は松葉杖を片方誰かに持ってもらわないと登れません。朝、学校に登校すると、いつも誰かが昇降口で待っていてくれて、階段を登るときに「杖持つよ。」と言って手助けしてくれました。

僕は学校の遠足で、箱根の海賊船に乗りました。船の一番上に行く時、階段でみんなと一緒に行こうとしたら、乗組員さんが丁寧に「こちらへどうぞ。」と言って、エレベーターを案内してくれました。僕はその頃、松葉杖で階段を登っているせいで、腕が筋肉痛になってしまっていました。僕はエレベーターに乗って「助かるな。」と思いました。

僕は怪我をして、支えてくれる人や設備の大切さを学びました。こんなにも感謝したことはないです。ですから、支えてくれる人が

自分と同じ状況になったら、自分も同じように手伝おう、バリアフリーなどの設備も長持ちするように丁寧に扱おうと思いました。どんな人でも困っていたら、積極的に助けようと思いました。

僕は怪我をした期間で、少しだけ足が不自由な人の気持ちが分かった気がします。これからはこの経験を活かして、幸福な生活をみんなが送れるようにしたいです。

20×20